

地元代表協議会における主な協議概要

1 第1回～前回協議会までの概要

<第1回協議会（平成22年2月）>

千城台地区において小・中学校の適正配置を協議していくことを合意し、まずは適正配置の方向性についての課題を洗い出しすることから協議することを確認した。

<第6回協議会（平成23年2月）>

小学校から統合の必要性を先行して協議することを決定した。

<第11回協議会（平成24年3月）>

小学校は、小規模校故に授業や行事等の教育活動において様々な支障が出ている。これらを解消・軽減する意味からも適切な学校規模とすることが大切であるという視点から、小学校について、適正配置が必要であることが合意され、次回以降、小学校の統合における組合せ、統合校の位置、時期の協議を行うことが確認された。

<第14回協議会（平成24年10月）>

会長・副会長から「今後の協議について」の提案があり、「現行学区での統合を検討すること」「統合校の配置は、子どもたちにとってのより良い教育環境の視点を重視すること」「中学校統合については今後の協議に関連して、必要に応じて行うこと」「事務局は随時情報収集し、地元代表協議会に情報提供を行うこと」が確認された。

<第16～20回協議会（平成25年2～8月）>

小学校の統合シミュレーション51通りのうちA・Bの2案に絞り協議を行ったが、両シミュレーションとも合意に至らなかった。このことから協議の流れを変更し、シミュレーションBの論点の一つになっていた「中学校の統合の必要性」を先行協議し、中学校の方向性を踏まえて再度、小・中学校の統合協議をまとめていくこととした。

<第21～23回協議会（平成25年10月・26年1月・3月）>

中学校の適正配置について協議を行い、中学校の統合の必要性については、「両中学校とも適正規模でないため、統合の必要性はあるが、中学校の統合は、強行せず見送ることが妥当である」ことが確認され（第22回）、「中学校の統合については、今回の統合は見送る」という方向性を大筋の合意とする協議を行ったが、全会一致の合意には至らなかった。（第23回）

<第24・25回協議会（平成26年6月・7月）>

平成26年度児童生徒推計による小・中学校の状況、小学校の統合シミュレーションについて協議を行った。今後の協議を迅速及び具体的に進めるために、次回以降の協議を学校保護者代表と正副会長、事務局による分科会で行い、分科会の意見がまとまった後に全体会で協議していくこととした。

<第26・27回協議会 [学校保護者代表による分科会]（平成26年10月・11月）>

各団体の報告を踏まえて、中学校統合に関する協議を行った結果、「現状での統合を見送る。」という方向性に7団体中5団体の同意が得られたため、統合を賛成する2団体が意見を再度集約してくることとなった。

<第28回協議会 [全体会][学校保護者代表による分科会]（平成27年1月）>

[全体会]中学校統合の是非に関する協議を行った結果、「現状での統合を見送る」ことで全会一致した。学年2学級になった場合は、統合について再度協議することを確認した。

[分科会]小学校統合の組合せの協議を行い、現行の中学校区を前提とした小学校の統合を検討する方向性が確認された。

＜第 29 回協議会 [学校保護者代表による分科会] (平成 27 年 2 月)＞

小学校統合について、「具体的な組合せ」や「統合校の場所」について協議を行った結果、「東小を単独で残す」「北小と西小で統合を検討する」「南小と旭小で統合を検討する」ことを前提に、今後協議を進めていくことが確認された。また、統合した場合の具体的なメリットや、施設等をイメージできる合同説明会を実施することとした。

2 第 28 回～第 29 回協議会 (分科会) の具体的な内容

(1) 各小学校からの報告と、協議の方向性

- 【千城台北小】小学校の統合は必要であり、統合場所は通学路の安全や保護者の安心を第一に決定する。
- 【千城台西小】統合校は 2 校が望ましい。小中連携・一貫教育を行うために、小中が隣接する場所が適しており、西小と南小の 2 校を統合場所にする。
- 【千城台東小】中学校統合を見送ることになったことから、東小を単独で残し、「北小と西小」の統合校、「南小と旭小」の統合校とする。
- 【千城台南小】統合場所が南小になるのであれば統合に賛成である。
- 【千城台旭小】小学校の統合に賛成し、南小と統合することが望ましい。統合場所は、子どもルームや校庭、安全性を考慮し、旭小とする。
- 【千城台中小】西中学校区の小学校統合の組合せは、協議会の方向性に一任する。南中学校区の組合せも協議会に一任する意見が最も多かった。
- 【千城台南中】小学校統合については、協議会の方向性に一任する。

＜分科会の方向性＞

東小を単独で残し、「北小と西小」、「南小と旭小」をそれぞれ統合する。

(2) 東小を単独で残す理由

- ・現在でも複数学級があり、将来的にも複数学級が維持できる可能性があること。
- ・子どもの安全と保護者の安心を最優先とし、「東小は存続してほしい」という東小保護者の要望が強いこと。
- ・御成台地区の子どもたちが、東小に通学することになった経緯を考慮する必要があること。
- ・3校統合（東小・南小・旭小）した場合、西中学校区と南中学校区の小学校で学校規模がアンバランスになることや、中学校が 2 校存続することから、御成台地区の児童だけが西中に進学するようになってしまうこと。

(3) 保護者対象合同説明会の開催

協議会がスタートしてから長期間過ぎ、保護者の間で統合に対する認識が低くなってきていることから、統合した場合のメリットや先行地区の施設の様子等、具体的なイメージがもてるように保護者を対象とした説明会を開催する。

「千城台地区学校適正配置に対する説明会」

- ・ 5 月 3 0 日 (土) 10 : 00 ~ (千城台南中学校 体育館)
- ・ 5 月 3 1 日 (日) 10 : 00 ~ (千城台西中学校 体育館)